

書評

毎日新聞社発行

依田 直 監修 地球問題研究会編

トリレンマへの挑戦——人類・いま選択のとき——

評者 小山 清*

Kiyoshi Koyama

爆発的に増大する世界人口、増加の一途を辿るエネルギー消費、さまざまな形で顕在化する環境の劣化のなかで、人類は経済成長、エネルギー・資源、環境の三者の間のトレードオフ、つまりトリレンマの状況に直面している。

世界人口は21世紀半ばに100億に達するといわれている。飢餓と貧困に苦悩する人々と、飽食と奢侈に浸る人々が併存するなかで、今後の世界経済秩序をどのように形成するか、あるいは貧困を解消するためにどれだけの経済成長が達成できるのか、また、残り少ない貴重な資源・エネルギーを現世代で食いつぶすことなく、今後とも持続可能な生活を保証するために、エネルギー問題にどう対処するのか、さらに、人間が生存できる唯一の水惑星である地球の環境をいかに保全していくのか、これらは、人類が直面している大問題である。

いいかえれば、経済発展・資源エネルギー確保・環境保全という互いに相容れなく見える三つどもえの目標をいかに調和させ、達成していくかは、われわれ一人ひとりに突きつけられた課題である。

本書では、この課題に取り組むために、トリレンマの現状を分析することから始め、科学技術の役割、経済社会システムや現代文明のあり方など、さまざまな視点からこれらの課題の解明への道を探っている。

内容は、病める地球の症状、危機の前兆が捉えられるか、技術最前線からの報告、社会システムの変革、経済システムの変革、新しい文化を求めて、の6部からこれらの課題を分析している。とくに、興味を引いた内容はつぎのものである。①産業革命後の化石燃料を利用するエネルギー大量消費時代の経緯。②人口増加における飲料水・食料資源の不足問題。③エネルギー・資源・食料問題と不可分の関係。④今後の「経済発展」と「資源・エネルギー」と「環境」の3者の間

の問題点の構造。⑤不確実性が伴う地球温暖化予測。⑥地球サミットにおける非政府組織（NGO）の役割の国際社会のなかでの認知。⑦日常の社会活動や生活の中でのエネルギーの使用法の現状と地球規模の資源環境問題との関係。⑧日本の環境保全技術の既存技術を途上国の実情に合わせて、コストパフォーマンスの高い技術としての移転問題。⑨技術エネルギーとしての原子力を利用するための高度技術管理能力の要求問題。⑩有望な自然エネルギーとしての太陽と地熱。⑪社会システムの変革としての究極の省資源・省エネルギー社会への道。⑫国際的な対応策の策定・実施と科学技術開発の加速化の重要性。⑬経済システムの変革として環境保全と経済発展の両立のために意識改革の必要性、などである。

この書物は、たいへん読み易く、内容理解を助けるための図表をふんだんに採用（図は51、表は47）されており、「環境を保全しつつ、有限な資源・エネルギーを分かちあい、持続可能な経済発展をかなえるためにはどうすればよいか」が、一人ひとりが自分の問題として捉え、トリレンマの問題を地球規模（グローバル）的な問題としての意識改革につなげるためのひとつの指針となる。また、エネルギー・資源、環境、経済を学べる入門書とも考えられる。一読をお薦めできる書物である。

*大阪市立工業研究所 研究主任
〒536 大阪市城東区森之宮 1-6-50